

びいあらいぶ

2017年8月1回号

次回『びいあらいぶ』は9月4回
今回は全員に配付しています

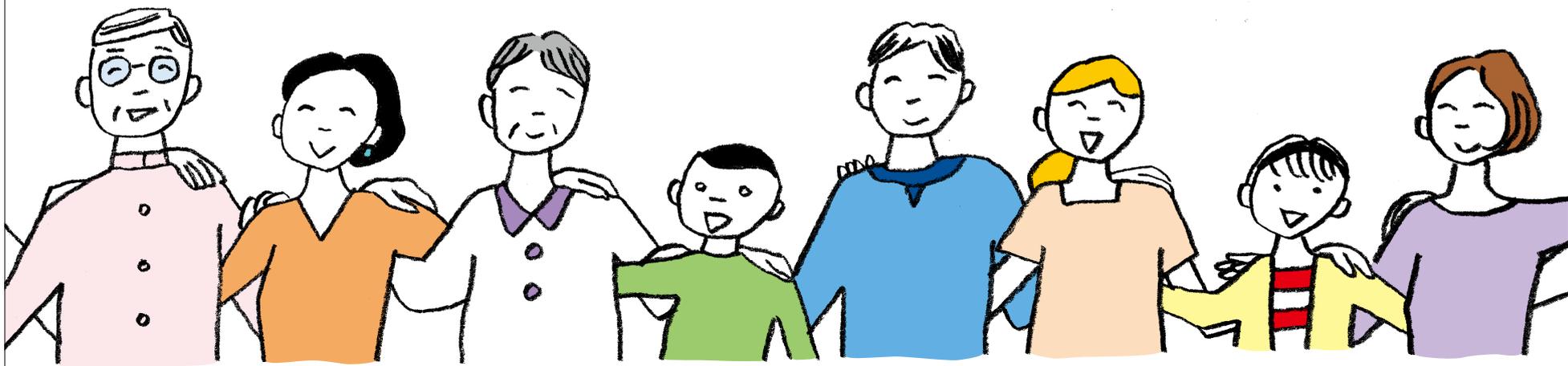
活動報告版

<http://www.palsystem-kyosai.coop/index.html>
 パルシステムの保障 検索
 パルシステムの保障はこちら!
 『びいあらいぶ』のバックナンバーも読めます
 健康・家計おうえんナビはこちら!
<http://www.palsystem-kyosai.coop/navi/>

35万人*の想いを形に。*2016年度末CO・OP共済《たすけあい》加入者数より

2016年度
助成報告

「たすけあい活動助成金」で 組合員を応援



「共助」で安定した毎日を

暮らしの課題に対して市民どうしで助け合って解決する、という考え方を「共助」といいます。パルシステム共済連が取り扱う「共済」とは、この「共助」の考えから生まれた、助け合いの精神にもとづいた保障の仕組みなのです。パルシステム共済連は、自助力だけではたちいなくなってしまう人を地域社会で支える「共助の仕組み」づくりに寄与したいと考え、さまざまな形で組合員の地域活動をサポートしています。

組合員の思いを集めて大きな力に 「たすけあい活動助成金」

組合員が地域で行う「たすけあい活動」をサポートするため、パルシステム共済連では「たすけあい活

動助成金」制度を設けています。助成する活動の審査・決定は、パルシステム共済連の理事会の下に設置した「たすけあい活動委員会」が行っています。委員の半分は各地域の生協の組合員理事から構成されており、実際に活動に携わる組合員によって審査・決定が行われています。これまで多岐にわたる活動を助成してきました。組合員からお預かりした共済の掛金の一部は、このように皆さんの暮らしに役立つ活動に活用されています。

ケガや病気を未然に防ぐために 「健康維持活動」

ケガや病気といった暮らしのリスクに金銭面で備えるのが共済や保険といった保障商品ですが、パルシステム共済連は、ケガや病気を未然に防ぐた

めの知識や方法を学ぶ機会を創出することも大切だと考えています。そのため、とくにケガや病気の予防・早期発見のための学習会等の開催（健康維持活動）を積極的にお手伝いしています。



これまで、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）や認知症、子どもの救急医療に関する学習会の開催や、乳がん罹患者の交流の場となるピンクリボンカフェ、高齢者の運動機能向上とストレス発散を目的とした運動会の開催等、さまざまな活動を支援してきました。

パルシステム共済連はお預かりした共済掛金が組合員の「より幸せな暮らしづくり」にさらに広く役立つよう、たすけあい活動委員会を中心に今後も助成金制度の適切な運営を行っていきます。

「たすけあい活動助成金」のしくみ



※「共同引受」…複数の元受団体（共済者）が、共同して共済契約を引受ける事をいいます。再保険や再共済とは異なり、各団体は共済契約者に対し、それぞれの引受割合（額）に応じた共済責任を単独個別に持ちます。

2016年度も組合員によって多くの「たすけあい活動」が実施されました。2～3ページでは2016年度に実施された活動を紹介します。

たすけあい活動助成金のご報告

2016年度は59の活動に対して、合計で約941万円の助成を行いました。助成を行った活動の一部をご紹介します。

パルシステム東京

「自分が暮らす地域のために」地域の担い手づくりのためのワークショップ等を開催

福祉 たすけあい活動

地域支援施設の認知度向上にむけた活動の支援と、「自分の暮らす地域のために何かをしたい」と考えている方へむけた講演会やワークショップを行いました。



ワークショップの風景

稲城市地域包括支援センターを併設する施設「ふらっと café やのくち」の存在を地域の方々に知ってもらうため、この施設を会場に「認知症サポーター養成講座(6月)」「高齢者のための簡単食事作り講座(11月)」を実施しました。どちらも講座終了後は交流タイムを設け、参加者同士や施設とのつながりのきっかけとなりました。

また地域で「居場所づくり」を始めたいと思っている組合員へむけ、実行へ踏み出すためのワークショップや講演会を3回実施しました。具体的な活動を知り、将来へのビジョンを描くことで地域での活動への一歩を踏み出すきっかけ作りとなり、また、同じ考えを持つ人と交流することでさまざまなヒントも得られたようです。

パルシステム群馬

障がいへの理解を深めるための映画上映会

福祉 たすけあい活動

障がいの有無に関わらずともに生きていくことの大切さを伝え、理解を深めてもらうため、不登校も特別支

援学級もない、だれも同じ教室と一緒に学ぶ公立小学校を映したドキュメンタリー映画「みんなの学校」の上映会を3団体共催で実施しました。上映会の前には今回の共催団体、芸術活動を通して障がい者支援をしているNPO法人「工房あかね」と、障がいのあるお母さんを育てているお母さんを支援している「がんばるお母さん支援事業 iitoko」の活動を紹介。参加者からは「もっとたくさんの方に見てほしい」「個性が生きる場を地域と作っていきたい」といった感想が寄せられました。活動組合員による手話通訳や字幕付き上映など、障がいのある方も参加しやすい上映会になりました。



講演には手話通訳も

パルシステム茨城

助け合いたんぼぼの活動支援

たすけあい活動 子育て支援活動

日常生活の困りごとをお手伝いする活動「助け合いたんぼぼ」の茨城県内各エリアメンバーのスキルアップを目的として、保育をテーマに学習会を実施しました。県北エリアでは手遊びと手作りおもちゃ作りの学習会を2回実施。保育時間がより充実するよう、手遊びの習得や身近なおもちゃを作る工作を学習するとともに、「預ける親とのコミュニケーション」についても学びました。



情報交換やおもちゃ作りに取り組みました

各会員生協の2016年度申請活動数

各地域の生協が申請した活動は、テーマや開催エリアを分けて複数回実施されているものもあります。

	総活動数	内訳			総活動数	内訳	
		助成金A	助成金B			助成金A	助成金B
パルシステム東京	5	3	2	パルシステム山梨	5	3	2
パルシステム神奈川ゆめコープ	11	7	4	パルシステム群馬	5	2	3
パルシステム千葉	2	1	1	パルシステム福島	9	2	7
パルシステム埼玉	9	5	4	パルシステム静岡	5	2	3
パルシステム茨城	8	4	4	合計	59	29	30

●助成金A…子育て支援、家事支援、福祉活動、ライフプランニング活動への支援 ●助成金B…健康維持活動への支援

かしまエリアでは認定こども園の園長を招いて地域保育にまつわる講演を実施。これからの保育活動へ生かせる多くの知識を得られました。

パルシステム千葉

子育て世代を元気にする「親子で楽しめるコンサート」

子育て支援活動

組合員や地域の子育て応援活動の一環として、親子で参加できるコンサートを実施し、433名が参加しました。コンサートは3部構成で、第1部は子育て世代ママさんの自主活動ヴァイオリングループによるディズニーメロディーのコンサート、第2部はリズムにあわせて体を動かすリトミックを親子で楽しみ、第3部ではタレントの榎原郁恵さんを迎えて、家族とのふれあいや食事、子育て体験について語っていただきました。講演後半には参加者の悩みに答えるシーンもあり、楽しい時間となりました。



上/リトミックの様子 下/榎原郁恵さんも交え記念撮影

パルシステム埼玉

くらし見直し講演会「消費税増税に負けない! お金が貯まる家計管理術」

ライフプランニング活動

組合員のライフプランニングのための学習の場として、ファイナンシャルプランナーを招いて家計管理に関す

る講座を実施しました。これからの家計管理と不安解消のためにどのようにお金を溜めていくとよいかを、実際の例をあげて説明するとともに、「お金上手」になるためのヒントなども紹介。日々の家計管理を見直し、不安を解消するためのきっかけ作りとなりました。



講師の深田晶恵さん(生活設計塾グループ取締役・ファイナンシャルプランナー)

パルシステム神奈川ゆめコープ

メノポーズ講座

健康維持活動

女性の関心事項である「更年期」を知り、心と体の変化を乗り切り快適に過ごすためのコツを学ぶ講座を2回実施しました。NPO法人女性の健康とメノポーズ協会から講師を招き、更年期の症状や治療法などを学ぶとともに、簡単なエクササイズなども行い、参加者からは「心の準備ができました」「不安な気持ちが少し軽くなりました」



等の感想が寄せられました。また、講演終了後には参加者同士の交流会も実施し、同じ悩みを共有することができました。



講師と一緒にエクササイズ

パルシステム山梨

メタボリックシンドローム予防のための講座と食生活改善提案

健康維持活動

成人病対策の一環として、「メタボリックシンドローム」を予防するための講座と食生活改善提案を実施しました。まずNPO法人日本成人病予防協会から講師を招いて、生活習慣病や高血圧、高血糖などについての話を聞くとともにリンパストレッチを全員で行いました。



NPO法人日本成人病予防協会・清水千佳子先生による講演の様子

講演に続き、講師の助言をもとに作成したパルシステムの食材によるオリジナル・レシピの試食会も実施。具体的なメニューや味を知れるとあって参加者にも好評でした。

パルシステム静岡

アレルギー知識普及のための場づくり

健康維持活動

アレルギー保有の子どもを抱える母親同士が不安や悩みを共有できる場を提供するとともに、パルシステムが扱うアレルギー対応商品の学習会を11回実施しました。同じ悩みを持つ母親同士、悩みを相談したり情報交換をするなかで、エビペンの使用方法等アナフィラキシーショック時の対応マニュアルを共有するなどの成果も生まれました。



試食や情報交換で悩みを共有

パルシステム福島

乳がんの基礎知識学習会(ピンクリボン運動)

健康維持活動 ピンクリボン



ピンクリボン運動の一環として、乳がん専門の医師を招き、乳がんに対する基礎知識や診断、治療法についての学習会を実施しました。統計に基づく原因や予防についての説明や、実際の患者の画像を見ながらの診断・治療法の解説など医師ならではの話を聞くことができ、漠然とした不安を解消するための理解と満足を得られたと好評でした。



片方直人医師による講演の様子

Topics

たすけあいの気持ちを支えます

パルシステム共済連では「たすけあい活動助成金」制度の他にも、組合員の「たすけあい」の気持ちを形にするさまざまな活動を行っています。

TASUKEAI_01

折り鶴活動

C O・OP共済では、ケガや病気で共済金をお支払いする方へ書類をお送りする際に、一緒に折り鶴をお届けしています。この折り鶴は組合員の方々に折っていただいたもの。ケガや病気で辛い思いをしている方に寄り添う気持ちを込めてお送りしています。パルシステム共済連でも、会員生協とともにこの取り組みをもっと広げたいと考えています。パルシステム埼玉では今年2月にチラシで折り鶴提供を呼びかけたところ、3月までの短い期間に約3万羽の折り鶴が集まりました。また、センターで行うイベント「青空市」で折り鶴回収BOXを設置したところ、こちらでは約4万羽の折り鶴が寄せられました。このように小さな折り鶴が大きな助け合いの輪となって広がっています。



こんなにたくさんの折り鶴がパルシステム埼玉へ寄せられました。

TASUKEAI_02

福島県在住の親子をサポートする「福島の子どもたち保養プログラム」を応援

パ ルシステムでは、東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所の事故で被害にあった地域を支援する活動の一環として、福島県在住の方に週末や長期休暇を利用して遠隔地で一定期間過ごしてもらう保養企画を2011年から毎年実施しています。パルシステム共済連ではこのプログラムに対し、CO・OP共済《たすけあい》への新規加入1件あたり50円を支援しています。2016年度は156万8,800円を支援。パルシステムグループ全体で約1,127万円が集まり、24の保養企画を開催、のべ683名が参加しました。



四季を通して、たくさんの子どもたちが自然のなかでのびのびと過ごしました。



TASUKEAI_03

福島の障がい者施設と協働し、プレゼントを製作

65 歳でCO・OP共済《たすけあい》の満期を迎え一定の条件に当てはまる方へ、長年ご加入いただいたことへの感謝の気持ちを込めたメッセージカードを送付、希望者へはプレゼントもお送りしています。蝶々がかわいらしいフェルトの「しおり」もプレゼントの一つ。東日本大震災以降、福島県内で避難生活が続く障がい者の方々が一つひとつ手作りしている品です。福島県内の障がい者の「仕事に繋がる活動をしたい」という気持ちを支援するNPO法人しんせいを通じて製作を依頼しています。パルシステム共済連では、今後も被災地で暮らす方々との交流を絶やすことなく、支援を続けていきます。



一つひとついねいに作られたプレゼントの品。障がい者の雇用の創出にもなっています。

TASUKEAI_04

組合員による組合員のための学習会を実施

パ ルシステム共済連では、共済事業を行うにあたって、保障商品を提供するだけでなく、保障商品を自ら選択できる力を育むことを含め、組合員どうしが暮らしの「お金」について「学びあう場」が大切であると考えています。そこで会員生協とともに、CO・OP共済連が実施する「LPA養成セミナー」を終了した組合員をLPA（ライフプランアドバイザー）として認定し、LPAが講師を務める組合員向けの学習会や講演会を実施しています。内容は税金や年金、家計簿、教育費、セカンドライフなどが中心です。2016年度はパルシステムグループ全体で合計134回開催、1,591名（前年比129.2%）の多くの組合員が参加しました。

